

# 松ヶ崎廃寺

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



第1区の建物跡(北から)



第2区の池跡(北西から)

はじめに 調査地は、京都盆地の北東、五山の送り火「妙」「法」がある山並の南裾に位置する松ヶ崎小学校敷地内にあります。当地は松ヶ崎廃寺に比定されていて、2003年に行なった今回の調査以前にも、1978年と1993年に発掘調査をしています。

寺の歴史 松ヶ崎廃寺は、『日本紀略』正暦3年(992)6月8日条の「中納言源保光卿供養松ヶ崎寺、号円明寺」から、平安時代中期に源保光によって建立された松ヶ崎寺であると考えられます。後に歓喜寺と名を改め延暦寺の末寺

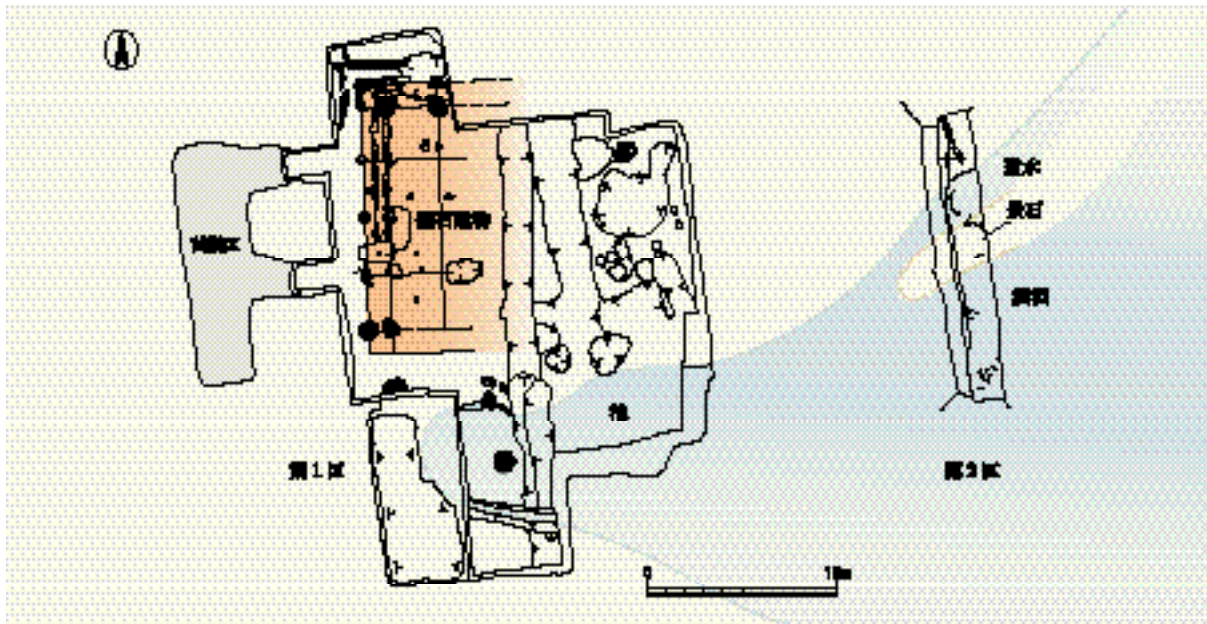
でしたが、徳治2年(1307)に住職の実眼が日蓮宗に改宗し、寺号も妙泉寺と改めました。その後、天文5年(1536)の天文法華の乱で、延暦寺の宗徒に攻められて焼亡しましたが、天正3年(1575)

には再興されました。

江戸時代を経て、明治9年(1876)に寺域の一部が松ヶ崎小学校となり、大正7年(1918)に北東の本涌寺と合併して現在の涌泉寺となりました。



調査位置図(1:5,000)



礎石建物と池の配置

調査の経緯 前回の調査で妙泉寺に  
関係する石垣が見つっていますが、  
今回の調査では、この石垣群の延  
長部が検出できる可能性があり、さ  
らに平安時代の遺構の発見も想定さ  
れました。

調査の結果、平安時代後期に創  
建されたとみられる礎石建物跡1  
棟と、礎石建物跡の南東に広がる  
景石、洲浜、遺水をともなう池跡  
を検出しました。

また、桃山時代から江戸時代の  
妙泉寺関連の遺構も発見しました。

発見した遺構 第1区で検出し  
た礎石建物は、南北5間以上・東  
西2間以上で、西と北には縁と雨  
落溝がめぐっていました。建物基  
壇は、土を盛り上げて亀腹状の高  
まりとなっていたと推定されます。

礎石建物の創建時期は、下層か  
ら平安時代後期の土器や軒丸瓦が  
出土したことや、鳥羽離宮跡や六  
勝寺跡の礎石建物の構造と類似し  
ていて、雨落溝内側の石列に礎石  
を据えるという建物の構造から平  
安時代後期の創建と考えられます。

また、礎石の掘形からは14世紀頃  
から16世紀までの土器が出土して  
いますが、これらはこの建物の修  
復の痕跡を示すものでしょう。

次に廃絶時期については、礎石  
建物を覆う層や土壌から16世紀前  
半の土師器皿が出土していること  
から、天文法華の乱の前後と考え  
られます。出土遺物には、瓦がほ  
とんどなく、屋根は瓦葺きではな  
かったと考えられます。

第2区で検出した庭園遺構には  
改修のあとが見られました。古い  
時期のものは、出土遺物から11世  
紀までさかのぼると思われる。そ  
の後、遺水と景石をともなった

ものに改修されますが、これは礎  
石建物が創建される12世紀頃に修  
復されたと思われます。

今回検出した建物と庭園は一体  
のもので、建物の向きは、池の位  
置から、東向きの可能性が高いで  
しょう。

おわりに 前回の調査で検出し  
た石垣の一部が敷地北端の山裾に  
移築保存されています。今回の調  
査で見つかった礎石の一部と石列  
をこの石垣の上に移し、庭石も同  
所横に据えました。また、建物遺  
構については、砂を入れた後に埋  
め戻し、保存の処置をとりました。

(布川 豊治)



移築した景石(左)と石垣